

今回の震災で、家族がバラバラになってしまった。妻はスリランカ、息子はアメリカの高校。でも私の住むところは福島しかないと思っている。頑張っていくしかない。(郡山市在住スリランカ出身男性 平成23年10月取材)

震災後すぐに5歳の息子と妻の3人で中国に一時帰国。息子は、まだ中国の両親に預けたまま。いつになったら子どもと一緒に暮らせるのか、将来の生活設計が立たない。(福島市在住中国出身男性 平成23年10月取材)

ごはんは、子ども用には県外産米を、大人用とは別にして毎食2釜炊いている。毎日目に見えない放射線と戦っている感じ。でも愛する家族と一緒にだからがんばれる。(二本松市在住フィリピン出身女性 平成23年11月取材)

家族で一時母国に避難したが、仕事のことがあるので子ども3人だけを実家に残して5

月に福島へ戻ってきた。今は、スカイプなどで子どもたちと連絡を取り合っているが、会えなくてとてもさびしい。(福島市在住フィリピン出身男性 平成23年12月取材)

趣味の写真をネットで公開し、県内の素晴らしい風景を世界中の人に知ってもらい、多くの人が福島を訪れてほしいと思っている。(福島市在住エジプト出身男性 平成24年1月取材)

私は福島で暮らして35年。福島は私の故郷。楽しいことを考えて、前向きに過ごしていこうと思っている。(いわき市在住トンガ出身女性 平成24年1月取材)

避難所を転々として8月から福島市内の仮設住宅に住んでいる。浪江には5年前に新築したばかりの家のローンも残っている。いろいろ考えてもしょうがない、なるようにしかならないと思っている。(浪江町在住中国出身女性 平成24年2月取材)

II

4 各種会議の開催

(1) 中核的市国際交流協会ネットワーク会議

- ・実施日：平成23年8月23日(火)10:00～15:00
- ・出席者：県内10市の国際交流協会担当者
(10市全協会が参加)

① 被災状況の報告

市	事務局の被害状況	外国出身者からの相談件数
福島	特になし	2
会津若松	特になし	67
郡山	被災したため、別建物で業務	7
いわき	被災したため、4月末から別建物で業務	79
白河	特になし	0
喜多方	特になし	0
二本松	特になし	0
田村	特になし	0
南相馬	屋内避難のため、4月中旬まで閉所	—
伊達	特になし	0

※会津若松、南相馬、喜多方以外の7市協会は、市役所内に事務局を置き市職員が兼務

② 震災時の外国出身住民への支援内容

- ・パソコンが使えなかったため、海外にいる元国際交流員に英訳をお願いし、ツイッターを活用して英語での情報発信を行った。(いわき市国際交流協会)
- ・FM会津の協力を得て、3月12日に英語で30分ほど情報発信した。(会津若松市国際交流協会)
- ・市業務として避難所支援を行ったが、困っている外国人がいるようには見えなかった。(福島市、郡山市、白河市、二本松市、田村市、伊達市、白河市の国際交流協会)
- ・市内の主な避難所に出向き、県協会からの地震情報センターのチラシを貼って

まわったが、困っている外国人は把握できなかった。(会津若松市国際交流協会)

③情報交換

- ・震災時は、市職員としての災害対応業務があり、外国人支援活動に特化した業務に従事する環境ではなかった。
- ・大使館の避難用バスの情報提供について、大使館からでなく個人から得た情報であったため、市協会として発信して良いか迷った。結局できなかった。
- ・外国人から特に相談がなかったが、これを外国人が家族や地域とうまくいっていたと解釈するか、当協会があてにされていなかったと解釈するか微妙である。
- ・外国人からボランティア活動をしたいという申し出もあったが、うまく対応できなかった。協会独自のボランティアコーディネート体制を考えておく必要がある。
- ・外国人の状況が見えず積極的な支援ができなかった。今後地域の外国人と接点をもつ体制をつくる必要がある。
- ・外国人のネットワークがあれば、それとの接点を持つことで効率的な支援ができるかもしれない。外国人のネットワーク化を支援していきたい。
- ・英語、中国語だけでなく、少数言語に対応できる他団体との連携の必要性を感じた。
- ・日本語教室やその他各種団体とのネットワークが必要であると思う。
- ・緊急時に備え、日頃から外国人が地域の中でコミュニケーションを取っていることが大切である。



(2)日本語教室ネットワーク会議

- ・実施日：平成23年9月6日(火)10:00～16:00
- ・出席者：県内の日本語教室の代表者(33教室のうち20教室が出席)

①講演

テーマ：「震災後の外国人学習者の心のケアについて」

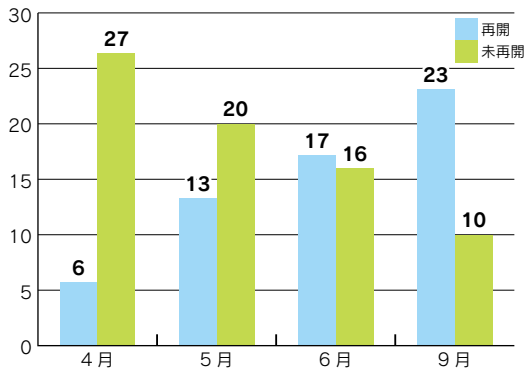
講師：鶴川晃(大正大学人間学部人間環境学科専任講師)

②震災時の状況報告

- ・教室ベース、個人ベースで学習者の安否確認を行ったケースだけでなく、学習者の方からボランティアに連絡を入れてくれたケースも多かった。
- ・震災当初は、原発事故の心配から母国等に一時避難する学習者が相次いだため、休止した教室がほとんどだった。
- ・震災により会場が損壊したり避難所に使用されたりしたため、会場の確保ができず休止したところも多かった。

③意見交換

- ・普段からの信頼関係が構築できているかどうかは非常時には大切であると感じた。
- ・ALT、企業研修生などは情報が早く入り、いち早く行動できたが、コミュニティに属さない個人は情報が入りにくかったのではないかと。
- ・帰国するかしないか、福島を食べ物は安全かどうかなどの判断は本人次第である。周囲の日本人は、彼らが判断できるように情報提供していくしかないのではないかと。
- ・一時避難から戻ってきた外国人の受け入れについて、地元住民の寛容さが大切である。
- ・震災がきっかけで、これまで以上に外国人学習者と寄り添うことができた。



平成23年度における日本語教室再開の推移(県内33教室への電話によるヒアリング)

※平成24年12月末現在、なお休止状態の日本語教室は、福島市内(1)、警戒地域となっている大熊町内(1)、南相馬市小高区内(1)



5 放射線に関わる健康管理セミナーの実施

放射線の健康への影響に対する不安解消の一助とするため、英語又は中国語の逐次通訳を入れた放射線に関わる健康管理セミナーを県内4会場で実施した。

また、講演録と4会場の質疑応答をまとめたものを4か国語に翻訳して印刷し、外国出身住民等に配布するとともに、当協会ホームページに掲載した。



- ・発行月：平成24年2月
- ・翻訳言語と発行部数：中国語(900部)、英語(500部)、韓国語(300部)、やさしい日本語(300部)

(1) セミナー

- ・講師：高村昇さん(福島県放射線健康リスク管理アドバイザー 長崎大学教授)
- ・実施日・場所等

(2) 講演録翻訳版の作成

月日	会場名	参加者数 (うち外国出身者数)	逐次通訳した言語
12月3日(土) 13:00~15:30	郡山市総合福祉センター(視聴覚室)	16(3)	中国語
12月4日(日) 13:00~15:30	会津若松市生涯学習総合センター『會津稲古堂』(研修室3)	13(5)	中国語
12月17日(土) 13:00~15:30	いわき市社会福祉センター(大会議室)	42(1)	英語
12月18日(日) 13:00~15:30	福島テルサ(あぶくま)	52(17)	英語

計123名(うち外国出身住民26名)

